

# 特集 環境報告書発刊3周年 京都大学の環境活動を振り返る

詳しくは詳細版10ページへ <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/environment/report/index.htm/>

京都大学は2006年度に初めて環境報告書を公表し、それを一つのきっかけとして環境問題への取り組みを発展させてきました。環境報告書の発刊とともに進めてきた取り組みをまとめました。

- ：環境に関する取り組み
- ◆：体制や組織に関する事項
- ◎：教育や訓練に関する事項

## 京都大学のこれまでの主な環境活動(2005～2009年度)

	環境管理全般・環境報告書	温室効果ガス削減・省エネ対策	廃棄物対策	化学物質管理	アスベスト対応
2005年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最初の環境報告書の作成を開始 環境負荷データの収集・分析、表紙の公募、ステークホルダー委員会などの試み始める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○省エネルギー改修の実施 省エネルギーを主な目的とした改修工事がこの頃より始まる</li> <li>○「省エネパトロール」を開始 省エネルギー専門チームを編成し、パトロールを始める</li> <li>○エネルギー消費機器調査の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「京都大学における廃棄物の取り扱いについて」を発行(2月) 廃棄物の取り扱いや記録方法について解説した手順書を発行し、学内に配布する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆KUCRS(京都大学化学物質管理システム)の全学導入・展開を開始 総端末数約500台でスタートする</li> <li>◆KUCRS運営委員会を設置(8月) KUCRSの全学展開に伴い、その運営に関する議論を始める</li> <li>◎KUCRS講習会を実施(11月)</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆アスベスト問題専門部会を設置 アスベストによる学内への影響の調査・検討を始める</li> <li>○アスベスト調査を実施</li> <li>○体育館などの吹き付けアスベスト除去工事を実施</li> <li>◎アスベスト問題・京都シンポジウムを開催(1月)</li> </ul> 
2006年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ステークホルダー委員会を開催</li> <li>○環境報告書2006を公表(9月) 外部組織主催の各種賞を受賞する</li> <li>◆環境目標管理システム推進検討ワーキンググループを設置(10月) 環境マネジメントシステムの整備についての提案・計画に向けて議論を始める</li> <li>◎環境報告書2006発行記念シンポジウムを開催(1月)</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量急増の事実が露わに</li> <li>◆エネルギーマネジメント委員会を設置(6月) 法に適合したエネルギー管理の推進と効果的な省エネルギー活動を検討する</li> <li>○環境配慮行動マニュアル～研究室・脱温暖化編～を作成 研究室での省エネルギー・CO<sub>2</sub>削減のための行動とその効果を日めくりカレンダー形式にまとめたものを作成し、学内に配布する</li> <li>CO<sub>2</sub>排出量は前年比4.9%減</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎環境安全衛生実務講習会を実施(6月) 廃棄物の取り扱いについて解説をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不用薬品類のKUCRSへの登録・搬出処理を開始</li> <li>○毒・劇物類のKUCRSへの登録・管理を開始</li> <li>◎KUCRS講習会を実施(5～6月・12月)</li> <li>○高圧ガスの保有量調査・KUCRSへの登録を促進</li> <li>○化学物質管理規程を制定(2月) 「教育又は研究に用いる元素及び化合物」を対象とした管理規程を制定する</li> <li>KUCRS総端末数は700台を超える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アスベストに関する学内相談窓口を開設</li> <li>○非飛散性アスベストとアスベスト廃棄物の取り扱いについて学内に通知(12月)</li> </ul>
2007年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ステークホルダー委員会を開催</li> <li>○環境報告書2007を公表(9月)</li> <li>○「京都大学環境計画」を策定(1月) 5つの分野を重点目標として、環境負荷削減計画を策定する</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>5つの柱</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な環境負荷に関する情報を継続的に把握・検証</li> <li>2. エネルギー使用量と温室効果ガス排出量の削減</li> <li>3. 廃棄物による環境負荷の低減</li> <li>4. 化学物質の安全・適性管理の推進</li> <li>5. 全構成員に対する環境安全教育の推進</li> </ol> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○省エネルギー推進方針を策定(4月)</li> <li>○CO<sub>2</sub>削減目標を設定(1月) 京都大学環境計画において、床面積あたりエネルギー消費量・温室効果ガス排出量を毎年2%削減することを宣言する</li> <li>CO<sub>2</sub>排出量は前年比7.3%増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎廃棄物管理講習会を実施(11月)</li> <li>○廃棄物削減方針を制定 京都大学環境計画において、再生可能資源由来廃棄物の最終処分回避・再生の推進、枯渇性資源由来廃棄物の発生抑制を目指すことを宣言する</li> <li>○レジ袋削減の取り組みを始める いくつかの学内店舗で取り組んだ非有料化方式によるレジ袋削減活動が注目を集める</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎KUCRS講習会を実施(5～6月)</li> <li>◎KUCRS実務管理者講習会を実施(2月)</li> <li>◆化学物質管理専門委員会を設置(2月) 化学物質の管理に関する専門的事項の検討を始める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆アスベスト問題専門委員会を設置(4月)</li> <li>○石綿則のアスベスト含有率基準が0.1%に強化されたことに伴い、再度調査を実施</li> </ul>
2008年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆環境・エネルギー管理推進室を設置(4月) 京都大学環境計画の策定を受けて、省エネルギー・CO<sub>2</sub>削減などの推進のための具体的施策の検討を始める</li> <li>○環境法令遵守状況調査を開始 各部署における環境関連法令の遵守状況をチェックする調査を始める</li> <li>○ステークホルダー委員会を開催</li> <li>○環境報告書2008を公表(9月)</li> <li>◎環境報告書2008発行記念シンポジウムを開催(1月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境賦課金制度を導入(4月) 環境賦課金による改修工事を初めて実施する</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>環境賦課金のしくみ</p>  </div> <li>CO<sub>2</sub>排出量は前年比0.3%増</li>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎廃棄物管理講習会を実施(1月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験廃液のKUCRSへの登録・搬出処理を開始</li> <li>◎KUCRS講習会を実施(5～6月)</li> <li>KUCRS総端末数は800台にせまる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○吹き付けアスベスト除去工事を実施</li> </ul>
2009年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ステークホルダー委員会を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境エネルギー管理情報サイトの運用を開始(7月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マイボトルの取り組み実験を開始(4月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎KUCRS講習会を実施(5～6月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験機器等への対応を実施</li> </ul>

### ■温暖化対策

#### 地球温暖化防止に向けた京都大学の使命

環境・エネルギー管理推進室 前室長 吉田治典(名誉教授)

本学はユニークな環境賦課金制度の導入で世の注目を集め、省エネルギー対策ではESCOを他大学に先がけて実施し成果を挙げつつあります。しかし1990年からエネルギー消費は倍近くになったのに、5年間で10%という削減目標は少ないという指摘もあります。

現在、建物改修(ハード)による省エネルギー対策は推進できていますが、環境配慮行動(ソフト)による省エネルギー対策は順調ではありません。そこで、環境配慮行動を通じた省エネルギー対策の試行実験や参加型ホームページの作成にも着手し始めました。

京都大学は基本理念でも「地球社会の調和ある共存に貢献する」と明言しています。社会は京都大学に地球温暖化防止でのリーダーシップを期待しているに違いありません。

### ■廃棄物対策

#### 廃棄物発生の視点から

環境保全センター 教授 酒井伸一

京都大学における構成員一人あたりの廃棄物年間発生量は164～190kg/(人・年)です。日本の家庭ごみの発生原単位は年間約241kg/(人・年)であり、それに近い量の廃棄物を大学の活動で出しているということになります。今後は、減量可能性やリサイクル方法について、頭を巡らす必要があるでしょう。

廃棄物に関する課題としては、まず正確なデータ把握が必須です。京都大学の位置を知るためにも、また優良事例を学ぶためにも、他大学の状況とのベンチマーキングを進めねばなりません。

2007年度に、京都大学はレジ袋の削減に取り組みました。その方法は非有料化方式であったため、広く社会の関心を集めました。その後、マイボトルシステムへの取り組みも始まっています。こうした取り組みが行われていることを大切に、継続と次の一手を考えていきたいものです。

### ■化学物質管理

#### 京都大学での適正な化学物質管理を目指して

化学物質管理専門委員会 委員長 小山昭夫

教育・研究機関には、「使用される化学物質は多種多様で非常常的作業が多く、取扱者の多くは専門家と叫べないことから企業に比べて潜在的リスクがはるかに高い(環境報告書2007)」という実情があります。このような特殊性にもかかわらず企業と同じ規制を受けるのが、大学における化学物質管理の抱える共通の悩みとなっています。

環境報告書ではPRTR法対象物質の排出量など化学物質に関するデータが毎年グラフ化されて掲載されています。一目で増加しているデータが目立つのは残念ですが、実情を正確に発信することにより問題点を抽出し、自ら検証し対策を考えることは重要です。これらのデータの多くはKUCRSで管理されており、化学物質管理専門委員会ではさらに使いやすい信頼性の高いシステムの構築のため努力を続けています。

### ■アスベスト対応

#### アスベスト問題を中心に

アスベスト問題専門委員会 委員長 川村 孝

2005年にアスベスト調査を実施し、除去工事を行ってきました。2006年9月にはアスベスト含有率基準が1%から0.1%に強化されましたが、吹き付けアスベストについては、2005年にアスベスト問題専門部会(現・委員会)で対応策のフローチャートを作っていたので、新たに見つかった飛散性アスベストはそのフローチャートに沿って処理を進めました。

委員会では非飛散性建材にも取り組み、対応の手順を決めました。その次は実験機器で、対応のおおよその方針は固まっていますが、実態の把握が容易ではなく、実施はこれからです。

京都大学のアスベストへの対応は、良き環境・健康対策の見本であるよう、今後も努力を重ねていきたいと思っております。